

## 2018 年講評

第 10 回ステラジャム(国際ジャズオーケストラ・フェスティバル)は大学生の部 34 団体、小中高ユースの部 8 団体、ゲストとしてラブジャミ(LOVE JAMMIN'), 名古屋高校生ビッグバンド Free Hills Jazz Orchestra、愛知大学 Blue Stars Jazz Orchestra を迎えて盛大に開催されました。

全参加団体が同一のミディアムスイング課題曲を競い合うことで、日本のビッグバンドの基礎的演奏力が底上げされてきていると思います。また、ユニークセレクション賞争いによって各バンドの選曲や演出が多様化。エンタテインメント性も洗練されてきています。

特に、明治大学 Big Sounds Society Orchestra の試みは目を引きました。自分たちに与えられた 15 分間をひとつの「ショー」と考え、スムーズな進行、舞台の雰囲気作り、聴衆との意味あるコミュニケーションを戦略的に練り上げて臨んだのです。

また青山学院大学 Royal Sounds Jazz Orchestra のように、独自の路線で音楽性を追求し、レベルアップしてきた楽団も登場。「みんなちがってみんないい」という傾向が強くなってきたことは喜ばしいと考えます。

音響面では、新たな試みを導入。従来から管楽器にはマイクを立てませんでした。今年ではドラムやアンプのマイクも撤去。原則としてピアノ、ソロ、MC だけが PA を通し、あとは生音で演奏することとしました。これによって、審査員席ではサウンドがクリアに聞こえるようになりました。演奏者は PA に頼れないため、ごまかしがきかない環境が生まれました。

そのため昨年と比べて多くの楽団が点数を落としました。しかしこの生音演奏スタイルは、ステラシアターのような難しいホールにおいて、自分たちのアンサンブルをどう表現するかという新たなチャレンジを生み出しました。事前のサウンドチェックや、後日 YouTube で公開される動画から最適のバランスを探る、そんな新課題に取り組むこととなったのです。

これらを含めて、ステラジャムの合言葉「GET BETTER!」が、出演団体の共通目標となりつつあります。他者との比較ではなく、去年の自分から今年の自分へ、そして来年の自分へとステップアップをめざす。それは、審査員も、我々運営スタッフも同じです。毎年気持ちを新たにして、より良いフェスティバルに成長したいと考えています。

来年以降も、教育イベントとして、競技として、そしてエンタテインメントとして、一層のレベルアップをはかりましょう。

総合プロデューサー 黒坂洋介